

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 グループホーム らっこ)

事業所番号	0272500927		
法人名	社会福祉法人 十和田湖会		
事業所名	グループホーム らっこ		
所在地	青森県十和田市大字奥瀬下川目2-1		
自己評価作成日	平成22年8月18日	評価結果市町村受理日	平成22年12月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出する機会を多く設けており、ドライブやピクニック、外食会・外出などの行事を多く取り入れて気分転換を図っている。畑で野菜作りをしていて、野菜の成長を楽しみながら収穫する喜び、施設の周りには栗、さくらんぼ、りんご、ブルーベリー、クミ、グミ等の木があり、成長過程を見ながら収穫する楽しみがある。敷地内に観音様があり散歩を楽しみながらお参りをしている。開設時より猫を飼っており、一緒に暮らす事で癒され、精神安定に繋げることが出来ている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	http://www.aokaigoyouho.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0272500927&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成22年10月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広々とした建物の中で利用者はゆったりと過ごしており、その中で管理者及び職員は、利用者一人ひとりの個性を尊重し、その人らしい生活ができるような支援を心がけている。職員は利用者毎に担当者が決められ、居室前に顔写真入りで担当者の紹介を行っており、利用者・家族・担当職員で利用者の行きたいところや食べたい物について話し合い、ドライブや食べ歩きを行う「家族外食会」を実施し、相互の信頼関係を築いている。建物の周辺は自然に溢れ、法人敷地内に植えられている果樹は季節感を感じることができるほか、収穫の楽しさを与えている。ホームでは地域との関係を重視しており、ホームだよりを周辺の住宅や関係機関に配布して理解を深めてもらう取り組み等を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、毎朝の申し送り時、理念を読みあげることから一日が始まる。職員全員が話し合って決めた理念なので、その意味を理解し、日々のケアに生かしている。	グループホームが地域密着型サービスとして位置づけられたことを契機に、理念をスタッフで意見を出し合い「地域の中で安心して暮らせるよう常に笑顔をやささず、入居者の尊厳を保持し、信頼関係を築きながら支援します」に見直し、日常のケアサービスに活かされるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会長兼老人クラブ会長が畑を耕したり草取りをしに来てくれている。冬場はカラオケ、そば打ち、手踊りの慰問に来ていただき交流している。	地域住民にホームの理解を深めてもらうため、季刊の広報誌を周辺の住民宅1軒1軒に直接配布している。また、定期的に地域の保育園や学校、町内会等と交流を図るなど地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	らっこの広報誌を近隣の方々に直接配りながら、認知症についての説明や、協力をお願いしている。また、管理者が認知症サポーターキャラバンになっているため、介護予防教室に参加して地域の人々に認知症についての説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長兼老人クラブ会長、元民生委員、元町会議員や家族様に加え、市の担当者も参加して2ヶ月に1回開催している。その都度グループホームの状況報告や意見交換をする事ができている。会議録に明記する事で職員が把握しサービス向上につなげている。	運営推進会議は、メンバーがそれぞれの思いやアイデアを率直に言うことでホームのこれからの方向性を見出す足がかりにしている。会議ではホームの運営に対する報告や自己評価・外部の結果を公表し、よりよいホームづくりに向けて意見をもらい、サービスの質の向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回市の担当者が出席している。その都度状況報告しアドバイスをいただいている。また、必要に応じ電話連絡等によりアドバイスを頂くなど、情報の共有をしている。	運営推進会議には、毎回、市の担当者が出席し、参加委員から行政側への疑問・質問が投げかけられたり、制度説明の機会ともなっている他、保健所との連携の必要性についてアドバイスを受けることもある。パンフレットや広報誌等を配布しており、困難事例等があれば情報を共有し、必要に応じてアドバイスを頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行ため」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>開設当初より玄関や各居室には施錠をせずに対応している。帰宅願望のある利用者には職員が付き添って散歩に連れていったり、買出しを利用してドライブするなど介護面で工夫して対応している。園内外研修を通じて職員も身体拘束の内容について理解している。</p>	<p>管理者及び職員は、外部研修や内部研修にて身体拘束の内容や弊害について学習し、拘束のないケアを心がけている。玄関は防犯上、夜間は施錠するものの、日中は施錠しておらずオープンな雰囲気となっている。利用者の外出傾向は職員間で連携して見守りを行い、無断外出に備えて近隣住民や関係機関に対する協力体制を構築している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>園内研修で定期的に資料を用い、虐待防止について勉強会をしている。また、ヒヤリハット報告があった場合は、大きな事故につながらないように職員会議で再度対応方法について、相談して日頃のケアの見直しを行っている。外部研修についても虐待防止について学ぶ機会を増やしているところだ。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している</p>	<p>現在まで制度を利用した利用者はいなかった。しかし今後、制度が必要な方が入居する可能性もあるため、毎年外部で行われる研修に参加して知識を深めている。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居に関してらっこの理念や、料金、ケアの取組等説明し、見学して頂いた上で納得してもらい契約を交わしている。その後においても、不安や疑問があった時は随時利用者や家族等と話し合いの場を設け、対応している。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎月入居者より、希望、要望を聞いて家族と協力したり、行事に組み込んだりしている。2ヶ月に一度実施している運営推進会議を利用して、家族、入居者、地域の方々からの希望を聞いて、業務に組み込んでいる。申し送りや職員会議を利用して、職員から出された業務改善や対応、家族からの苦情等について検討している。家族が面会に来た際に、健康状況や小遣い金の報告をしている。</p>	<p>毎月聞き取り調査を行い、利用者一人ひとりの性格や表情・行動等をよく観察し、利用者の希望や要望を把握するよう努めている。ホームでは利用者の担当職員が決められ、毎月請求書等を送付する際には担当職員から利用者の近況報告を行い、日常的に家族と連携をとりながら支援している。ホール内には苦情受付窓口が明示され、意見箱を設置し、出された意見等は検討され丁寧に説明されている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りを利用して、利用者や業務改善等の意見交換をしたり、月に一度の職員会議にて、意見、提案を聞き業務に反映させている。職員の異動・勤務体制に関しては代表者が管理者及び職員の意向を確認し、利用者に与える影響をできるだけ少なくするよう配慮している。	職員は毎朝の申し送りや毎月の職員会議・カンファレンスの中で意見を述べる機会がある。また、管理者は職員で意見を出し合い、よりよいホームづくりを行っていきたいとの思いがあり、職員が意見を出しやすい環境作りに努めている。職員の異動等については利用者に与える影響等を考慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議、運営推進会議等に事務長が出席する事で管理者や職員個々の勤務状況を把握し、代表者に伝えている。また、健康診断については年2回実施しており、体調不良等で休む場合にも併設施設職員の協力を得ながら業務を進めている。就業規則は事務所に常時置いて職員が見やすいようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立てており、個々の力量に応じた研修に参加させて、質の確保・向上につなげている。研修後は研修報告書を作成し、その後は研修報告を全職員に報告し周知している。基本的に園内研修を重視しているが必要に応じて外部への研修も参加させレベルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	年間計画にGHふるさと十和田、GHきゃんばすとの交流会を計画していて、毎回交流会を持つ事が出来ている。その他、夏祭り等にも招待し合い交流を深め、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の相談があった際には、管理者が直接会って利用者の希望等をしっかり聞きとり、不安に思っている内容を確認した上で、一つ一つの事柄について説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する際、家族と直接会って困っていること、不安に思っていることをしっかり確認し、不安を解消するよう説明している。またケアマネージャーからも情報提供をして頂き、情報を共有して利用者が安心してすごせるよう家族にも協力を要請している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、家族や利用希望者のニーズに対し、対応出来ることには柔軟に対応している。その時点で一番何が必要かを見極め、その後も職員間で検討して、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と共に出来る範囲内で、利用者に役割分担を決めている。その中で利用者の得意分野を活かし、職員と一緒に作業し畑から野菜を収穫したり食後の後片付けなどやって、職員と一緒に生活を楽しんでいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時や受診時の電話報告等、利用者からの家族へのお願い事項等あった時など、こまめに家族へ報告し、家族の要望も確認し職員も理解して対応する事が出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の入居者が多い事もあり、知人や親戚の面会も多い。その際若い時の事を尋ねて回想法に取り入れたりしている。また、若い頃よく出掛けて行った所に行ってみたり、家族外食会も企画している。遠方の娘と絵手紙のやり取りをして今までの家族関係を継続できるよう支援している。	センター方式のアセスメント表の活用と日常の暮らしの中での利用者とのコミュニケーションを通じ、利用者がこれまで関わってきた人や馴染みの場所等を把握している。また、利用者一人ひとりの行きたいところやしたいことの希望を聞き、家族と担当職員の3人で1日体験をする「家族外食会」に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良し悪しを職員は把握しているので、利用者同士のトラブルが生じた場合でも、対処方法を理解して対応している。利用者にとってホールが憩いの場所になっており、そこに腰を下ろし歓談することで安心できる状況を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居先の施設には、情報提供をして暮らし方の継続に配慮してもらえるようにしている。また、退所後も相談があれば支援している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者から思いや希望がある時は、全職員が利用者の意向を理解するために、その都度話し合いをしたりカンファレンスを開いて対応している。利用者からの聞き取りが出来ない時は、家族や知人などから情報を収集してケアに組み込んでいる。	職員は、利用者一人ひとりの思いや希望、意向を把握するよう努め、それをケアプランに盛り込むようにしている。利用者の意向等が十分に把握できない場合には、利用者の会話や態度の変化の中にその人の意向や希望を見つけるようなケアを心がけるとともに、家族や周囲の関係者から情報を得ている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に利用者の生活歴や、ライフスタイルを聞き取りしているつもりだが、入所後に利用者から希望があったり、家族から要望があった場合には随時対応している。親戚、知人から情報を収集する場合には、個人情報なので十分注意して聞き取りをしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりカンファレンスや見直し等をしており、利用者にあった生活リズムで過ごせるよう全職員が把握して対応している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族から意見や希望がある場合はもちろんのこと、気づきをもとにその人らしく暮らせるように、全職員で話し合い介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い利用者の身体状況の変化を理解しており、必要に応じて見直しをして現状にあった介護計画を作成している。	介護計画作成時には、カンファレンスの場で全職員の意見をもとに計画書が作成されている。また、必要に応じて家族等関係者の意見や気づきを取り込むように努めている。介護計画作成後は毎月評価を行い、再アセスメントを行った上で、必要に応じた見直しが行われている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア状況や身体状況等について随時ケース記録やケアプラン用紙に記録している。職員は毎日記入内容を確認し、情報を共有する事で日々の介護に活かされている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	らっこの広報誌を近隣の方々や小学校、交番、コンビニ、消防署などに直接配りながら、認知症についての説明や、協力をお願いしている。地区会長が頻繁にらっこを訪れて、入居者と日常的に交流し、また、畑、園庭に植えている花々の手入れをしてくれるなど、少しずつ地域との協力を持つ事が出来ている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前よりかかっていた医療機関を受診している。状態に応じて歯科や眼科はもちろんの事、病状により入院が必要な時は、家族ともよく相談をしてかかりつけ医を変える場合もある。受診後は、家族に連絡を取り受診報告をしている。	利用者毎のケアチェック表により、これまでの受療状況が把握され、利用者の希望に応じた病院受診を支援している。協力病院は認知症専門医ではないが、認知症を理解し、利用者の状況に合わせた医療が提供されるよう配慮いただいている。受診の結果等については、家族との共有が図られている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の気づきを介護員同士相談したり、必要な時は併設の施設の看護師に相談しアドバイスをしてもらっている。利用者の緊急な受診にも対応出来るように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際には、担当職員がこまめに病院に行き入院状況を職員に報告している。ケアマネジャーが病院関係者と情報交換や相談をし、安心して治療が出来るよう関係づくりに努めている。また、早期に退院が出来るよう相談も随時行っている。入院が明らかに長期間かかるような時は、家族も含めて病院のDrから病状を確認し今後の対応について相談をしている。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所説明の際にも、利用者が重度化した場合事業所として可能なことと、対応困難な事をしっかり伝えていきます。事業所として終末期の対応について検討中である。健康管理や急変時の対応について利用者や家族、医療機関としっかり話し合いをして、職員も状態に合わせたケアが出来るよう支援している。</p>	<p>ホームでは利用者の重度化や終末期に対応していないが、家族には入所時等にホームでできること、できないことをしっかり説明し理解してもらっている。今後は看護師の配置が予定されており、医療との連携を図りながら健康管理や緊急時の対応に努める体制を図っている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変対応マニュアルがあり、毎朝バイタル測定をして健康状況を把握し、状況に応じて受診に繋げている。毎月防災訓練を実施し、年1回救命救急講習を受けており初期対応や応急手当について訓練している。</p>			
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回消防立ち入り検査を定期に受けている。日中対応と夜間対応の防災避難訓練をしている。年1回エスケープ訓練を実施している。年2回併設施設との総合防災訓練を実施している。その際消防訓練を実施している。年4回広報誌を配っていますが、その時を利用して地域の方に防災の協力をお願いしている。災害時に備えて非常食や飲料水を準備している。</p>	<p>災害に備え、年2回消防署立会いのもと昼夜を想定した防災訓練を実施している。また、毎月利用者と共にその時々条件を変えながら避難訓練を継続させ、利用者が行方不明になった場合の訓練も実施されている。災害発生時に備えて、飲料水や簡易食品等を事務室に保管し、すぐに持ち出せる体制となっている。</p>		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14) ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に掲げているように、入居者の尊厳を保持し信頼関係を築きながら支援しています。利用者の言動には、利用者が納得するまで寄り添い、話を聞いてあげ精神的に落ち着くように対応している。	職員は利用者の思いを受け入れるケアを目指して、一人ひとりの違いを尊重し、言動や行動は否定していない。利用者の希望する呼び方を確認し、相応しい呼び方を工夫しながら親しみを感じてもらえる配慮している。管理者・職員は守秘義務や個人情報の取扱いについての基本姿勢が理解され、日々の業務に臨んでいる。		
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	月に1度利用者の希望の聞き取り調査をしており、出来る限り叶えてあげるよう工夫している。意思表示の表現をうまく出来ない人には、家族からの聞き取りを利用して対応したり、日常会話の中から見つけだして支援している。			
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎月の予定はあるが、利用者のその日、その日の希望や精神状況、体調に合わせて柔軟に対応している。			
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望があれば、職員が美容院に連れて行ったり、家族の協力が得られれば家族が連れていっている。施設に居る時と外出する時の洋服を着替えて外出したり、通常でも天候に合わせて、汗をかいたりすると着替えたりしている。発語がうまく話せない方には、衣類を見せて選ばせている。利用者の中には、朝晩化粧水やヘアークリームを付けるなど、おしゃれをしている方もいる。			

自己 外部		項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	
					次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を定期的にしており、献立を作る際の資料として活用している。また、旬の野菜がたくさん採れた時は、利用者にとってどんな食べ方があるのかを聞いたりしながら職員と一緒に食事作りをしている。食事中は自分が作った事を伝えながら美味しく頂いている。食後の後片づけには、役割担当もあり一人ひとりにあった軽作業も職員と一緒に実施している。		入居時のアセスメントの際に、利用者個々の嗜好が把握されている他、献立担当職員が毎月利用者に嗜好調査を実施し、献立に取り入れるようにしている。調理の下準備や食器拭き等、利用者のできることは積極的に手伝ってもらい、職員も一緒に食卓を囲み同じ食事を摂って、料理の出来栄等を話しながら食事時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量、水分量の摂取状況を記入し、職員が把握して対応している。利用者の若い頃からの食事の習慣を入所時に確認しているので、食欲が進む様献立も工夫し支援している。体調に応じて摂取困難になったり、食器を持ちづらくなったりした時には、本人に合うような食事の工夫「刻み、ミキサー、とろみ」をしている。併設施設の職員に管理栄養士がいるので、必要に応じてアドバイスして頂いている。		/	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア時は、終始見とどりをを行い、出来る方には声掛けをしながら、出来ない所を支援している。		/	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況をチェックしており、その人に合わせプライバシーに配慮しながらトイレ誘導をしている。また、リハビリパンツやパットを使用している方に対しても、このパットが本人に合っているのかを随時検討して使用している。パットの使用状況が多い時などは、その原因について検討したり、家族へも状況説明をしている。		毎日の排泄記録がとられ個々に排泄のリズムが把握されている。利用者一人ひとりに沿った誘導方法を取りながら排泄機能の維持を目指しおむつに頼らないケアを目指している。尿意や便意の確認時や誘導時は利用者の羞恥心やプライバシーに配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を把握しながら、毎日歩行練習を実施したり食物繊維を取り入れた献立作りをしている。また、水分状況も排泄に大きく関わってくるので、1日の摂取状況も確認しながら自然排泄に繋げているが、便秘がちな人には下剤の有効活用をしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の曜日や時間については決めて対応しているが、入浴を拒否したり、体調が悪い時は無理をせず次日に入浴を勧めたり、身体清拭をするなど体調に合わせて支援している。	原則として週2回の入浴となっているが、利用者の入浴習慣や希望等を考慮し、時間帯や曜日を決めている。入浴を拒否する利用者については、無理強いせずあくまでも利用者の思いを尊重し、楽しい入浴になるよう誘導する事を心がけて職員の連携や工夫で対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昨夜の睡眠状況や体調、今までの習慣や本人の希望など、ひとり一人の生活リズムを把握し休息の支援をしている。寝つけない入居者がいた場合には、入所時に家族からしっかりと生活習慣等確認して、すでに眠剤を服用している場合には、医療機関より眠剤についての使用状況や副作用などを確認して使用している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のケースに薬の説明書を挟んでおり、全職員は薬の内容、服薬目的等について把握している。服薬が困難な時や服薬拒否が見られる場合は、ケースや申し送りに記入し全職員が把握して対応するようにしている。必要に応じて、医師に相談して処方を変えて頂く場合もある。その時は家族に報告し経過についても随時報告している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者に役割分担をしてもらい、日々の生活の中で「自分の仕事がある」と言う張り合いを持ってもらいながら、気分転換を図っている。季節に合った行事を企画したり、趣味のある方には、継続して実施できるよう支援している。			

自己 外部		項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	
					次のステップに向けて期待したい内容	
49	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>今年度から家族外食会と言う行事を作り、担当職員と家族とで相談して若い頃によく出かけた所とか、一緒に行って見たい所などに出かけリフレッシュする企画を実施している。急な家族の外出希望にも、本人の体調が良好であれば対応している。外出希望の多い方には、買い出し時一緒に出かけたり、ドライブや園内散歩をして気分転換を図っている。普段出かけられないような所には、行事組み込みをするなどして対応している。</p>	<p>ホーム周辺の法人敷地内にはりんご・ブルーベリー・栗などの果樹が植えられており、季節を感じるができる日常の散歩コースになっている。また、食材の買出しは近郊の商店やスーパー等に利用者とともに出かけているほか、外出時はホーム所有の自動車や法人内のリフト車等を借用することができ、利用者の身体状況に合わせた移動支援が行われている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理を出来る方が少ないが、買い物時には一緒に商品を選んでもらい、支払時には、本人にお金を見せて購入を介助している。個人の小遣い帳をつけているので、面会時に残金確認と購入内容などを見て頂き確認印をしてもらっている。</p>			
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話のやり取りについては、家族の都合等あり実施出来ていない。希望があった時には実施したい。遠方の家族とのハガキのやり取りをしている利用者もなかにはいる。ハガキの内容については身元引受人の方にも報告し、職員も内容を理解し会話の話題にしている。</p>			
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>広々としたホールで、温かみのある作りになっているため、利用者は落ち着いた生活が送れている。施設内には、観葉植物が置かれ、常に四季の変化を感じ取って生活出来るよう工夫している。</p>	<p>広いホールの中央には、テレビを囲むように利用者全員が座れるソファが置かれているほか、数箇所にはイスが置かれており、利用者は思い思いの場所で過ごしている。ホール天井は高く天窓があるため、日ざしが差し込むことで自然の採光ができており、ホールを取り巻いている居室も開放しているのでより広々と明るい印象がある。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合う人達が寄り添い、利用者同士が楽しく過ごせるホールを活用している。個人の趣味や休息をとりたい時は、自居室に行き過ぎていたり、本人の体調に合わせて対応している。</p>			
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人が使い慣れた寝具や大正琴、習字の道具やお茶の道具、テレビを持ち込んで居心地よさを確保している。ベッドやタンスの位置を担当と相談して本人が使いやすいよう配置している。</p>	<p>入居前から使用していたり愛用していた物品の持ち込みを家族へ働きかけている。なかなか持ち込まれない悩みはあるが、利用者の中には昔の趣味だった大正琴や書道の道具を揃えて、職員の勧めで時々音を奏でる方もいる。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>便所が分からない方へ、「便所」と張り紙をしたり、便所前にのれんを下げて場所を分かるように配慮している。テーブルやソファの配置などにも気を配り、車椅子や歩行器がスムーズに通れるように配慮している。</p>			